

主要科目の特長(大学院)

<b>児童学専攻</b>	
児童学研究法	児童学研究法Ⅰ・Ⅱ(1年次前期・後期)では、児童学一般に必要な研究方法を学ぶ。Ⅲ(1年次後期)・Ⅳ(2年次前期)は、特別研究担当教員(1年次前期に決定)から専門分野の研究法について学ぶ、修士論文執筆に直結する授業科目である。
児童心理学特論Ⅱ講義	生涯発達の見点に立った発達心理学の諸理論を学ぶとともに、現代社会における子どもの発達や養育上の問題について、そして必要とされている発達支援や養育者等への支援について学ぶ。
児童保健研究講義	児童精神分析のMelanie Kleinの代表的著書を輪講する。幼児との治療的やり取りの中で生み出される、精神世界とtransferenceのあり方を詳細に探求し、パーソナリティー障害などの若者の病理にも関連づけて論を進める。
児童文学特論講義	児童文学の成立と展開の歴史から、ファンタジーや冒険物語、日常の物語、動物物語などさまざまなジャンル、その成立の背景や文化の問題を扱い、児童文学が前提としている「子ども観」についても考察する。
児童教育 (児童教育特論講義・児童教育研究講義・児童教育研究演習)	我が国において「子ども」がどのように研究されてきたかを歴史的・発達の・社会的に俯瞰し(特論講義)、子どもの発達と音楽表現に関する内外の音楽教育方法論や関連の先行研究を基盤としつつ(研究講義)、フィールドワークをもとにした実践研究を行う(研究演習)。
児童社会学特論講義	子どもを取り巻く社会の大きな変化をふまえながら、家庭、学校、地域社会における事象が子どもに及ぼす影響について考察する。とくに、子どもにとっての望ましい社会のあり方を考えるという福祉的観点にたった考察を重視する。
<b>食物・栄養学専攻</b>	
食品学特論ⅠA	本講義では、これまで学んできたヒトの食物成分(糖質、タンパク質、脂質)の代謝(異化)経路とは異なる生物の食物成分生合成(同化)経路について学ぶ。
食品学特論ⅢA	食味特性の官能評価について、JIS及びISOの規格と日本の官能評価の現状を学ぶ。さらに各種食品の特徴と官能評価法について事例を基に適切な評価方法とは何か、理解を深める。
給食経営管理特論	本講義では、給食を中心とした・中食・外食の生産システムやメニューとその効果検証について、最新のマーケット状況や海外の実践例から学ぶ。
栄養学特論ⅠA	本講義では学術的研究の基礎として情報リテラシー、動物実験法、生化学や分子生物学的解析法等を学びつつ、食物とヒト疾患との関わりについて理解を深める。
栄養学特論Ⅲ	本講義では栄養生理、特に骨代謝研究を中心とした硬組織(骨や歯)に関する最新の研究について概説する。
栄養学特論Ⅳ	近年報告されている糖尿病治療ガイドラインや臨床データをベースに、栄養学的視点からの糖尿病への臨床対応方法を学ぶ。
食品微生物学特論A	微生物の様々な機能について、微生物学関連の最新研究成果を取り上げながら概説すると共に、微生物を対象にした様々な実験法についても紹介する。
食品学特論Ⅲ(調理科学)	食物のおいしさとテクスチャーの関連性について、それぞれの客観的測定法、主観的測定方法に関する解析手法を通して説明する。
栄養教育学特論A	認知行動療法を応用した栄養教育について学ぶ。特に基礎用語の理解を深め、臨床栄養教育への応用が可能な尺度について学ぶ。
<b>住居学専攻</b>	
都市居住計画論	集合住宅の居住者や施設の利用者の視点から人々の生活や心理・行動を調査・分析し、その結果をもとに計画・設計提案へと結びつけていくプロセスの学習、また提案の根拠を分かり易く、適切にプレゼンテーションする能力を養う。
建築設計スタジオⅠ～Ⅱ	建築の設計は建築学および住居学、さらには工学全般や広く人文・社会関連の諸学問の知識や設計製図の技能を駆使して、「与条件整理」、「問題の解決」、「創造的提案とデザイン」のプロセスを経て設計者の設計コンセプトを具体的な設計案の形で表現するものです。この授業においては一つの課題を通じてその一連のプロセスを学び、最終的なプレゼンテーションによってその表現の能力を身につけることを目的とします。
防災・安全性能論	住居の防災と安全に関わる情報をどのように理解するか、また消費者にわかりやすく情報伝達することについて演習をまじえつつ、知識を習得する。
保存再生居住論	文化遺産の保存・再生のシステムと設計手法に関する専門知識を修得する。とくに都市・建築遺産を対象として、保存・再生の歴史や技術とその背景にある理念を学ぶ。さらに、フィールドワークによって、現存する都市・建築遺産における保存・再生の実態と、そのシステムに対する理解を深める。
環境・設備システム論	物理的環境要素の計測実験、見学会、特別講義、最新技術やその実態に関する論文作成、設備設計製図やインターンシップなどの種々の内容を組み合わせ、設備の技術や実務に関する最新情報やより高度な専門技術、設計技術に関連した知識を学習する。
ユニバーサル環境論	ユニバーサルデザインの理念をデザインに展開するための人間中心設計の方法、デザイン技術、バリアフリー・ユニバーサルデザインに関する法律・基準・規格に関する知識を習得する。
インターンシップⅠ	設計事務所における実務実習を通して、建築設計実務の概要を把握し、業務に対する確かなイメージを持つとともに、設計に関わる諸条件とそれを形態化するための手法やプロセスに対する知見を与える。

被服学専攻	
衣材料学特論	衣材料学特論Ⅰでは衣服材料のうち繊維について取り上げ、衣材料学特論Ⅱでは糸から布までの範囲を対象として、その種類とそれぞれの製造法及び構造と性質に関する内容を講義する。
衣整理学特論	衣生活を営む上で重要な繊維製品の取扱いにおいて、使用や着用による汚れの付着と洗浄、繊維素材の染色仕上加工に関し、コロイド・界面化学的な面及び有機化学的な面を取り上げて考察する。また、環境負荷に配慮した試みについても考察する。
衣環境学特論	人の生活の安心・安全・快適化を目指し、健康・年齢・重力の場の異なる各種条件の生活支援に役立つ被服の要件を衣環境の視点から探求し、適切な被服の機能・素材・デザインの提案を可能とする柔軟な思考へと繋げていく。
衣造形学特論	人体の形状、動作特性について解剖学的、運動生理学的視点から分析していく。また三次元計測および動作解析法の実際についても学び、応用としてグローバルな衣服サイズシステムのあり方、さまざまな身体条件におけるボディと衣服設計のあり方を検討していく。
衣人間工学特論	身体の寸法・形状、姿勢・動作、生理・心理、感覚などの人間の様々な特性を考慮して被服を設計、評価し、改善を加える際に必要となる人間工学、感性工学、人間中心設計について学び、設計への応用について考察する。
服飾美学特論	西洋近世から近代の服飾を、同時代の美意識や感性の表象として捉え、社会・文化的側面から考察する。各種の文献資料や画像資料(絵画やファッションプレート)を扱い、服飾文化の意味を読み解く手法を検討する。
服飾文化史特論	現代の和服「きもの」は、近世の「小袖」を原型とし、日本の近代化の中で着用層や用途、形態や着装方法が大きく変化している。ここでは、「きもの」の近代化を生産、流通、消費の面から捉え、各地に残る「きもの」の実物や文献や絵画から考えていく。
消費生活特論	我々の消費生活は豊かになり、多様化している。しかし、生活の安全・安心が脅かされる事件や事故が後を絶たない。そこで、現代の消費社会の諸相を社会科学の視点から分析、評価する能力を養い、持続可能な消費社会のあり方を考える。
被服身体運動科学特論	近年の科学技術の発達により、人間を補助し、その潜在能力を引き出す道具としての被服の役割が拡大しつつある。この講義では、今後さらに被服分野で重要となるであろう身体に関する専門的知識の習得を目的として、身体運動科学関連のテキストを輪読する。
生活経済専攻	
生活経済基礎論Ⅰ	市場の失敗により生じている生活上のさまざまな問題を取り上げて解決策を経済分析により導き出す。具体例としては、多くの消費財市場に存在する情報の偏在の問題、環境破壊の問題、フリーライダーの問題等々である。その時には必ず、政府の失敗も考慮に入れつつ、実証分析の成果を重要視する。
地域経済特論Ⅰ	地域の開発計画は、従来は国がその財政と権限に基づき行ってきた。しかし、昨今の主に経済的環境から、地方分権と再編やNPOの参画など状況変化を経験しつつある。現実的意味での地域経済論の要請とは、地域問題があるということから発生している。そこで、地域の抱える具体的問題とは何かということから出発し、その現状分析と問題解決のために経済的にいかなる選択肢があるかを探っていく。
家庭管理特論Ⅰ	生活の社会化の進展により、家庭における生活過程は、費用・生活手段・サービスにおいて、家庭内から社会的におきかえられてきた。家庭管理を再構築する主体は、この生活様式の変化にどのように対峙するのか、家族・家庭が保有する人的・物的資源は、どのように何と結合させる活動が要請されるのか、現代生活の研究課題の視点からとらえていく。
生活公共組織特論	家族生活・コミュニティ・ソーシャル・ガバナンス・自治体政府という、生活と地域をめぐる多様で多重な関係の再構築が問われている。ここでは「生活の公共化・公共の生活化」という視点に立ち、家族、コミュニティ、市民団体、地域経済組織、行政などの新しい協働の在り方を構想する。
フードシステム特論Ⅰ	本講義では、フードシステムの経済分析を様々な角度から行っていく。わが国の事例を中心に現代の食料消費の動向を詳細に分析する。その後、分析に必要な基礎理論である産業構造論と産業組織論、および食品産業の代表的な産業についての個別産業分析を解説する。
生活保障・制度特論Ⅰ	税金や社会保険料を負担するという意味での社会連帯ではなく、個々人の多様な生活を尊重した上で社会連帯を基礎とした自助、共助、公助が図られなければならない。講義ではその問題状況が臨界点に達している介護問題、わけても「介護者」に焦点をあてる。

<b>日本文学専攻</b>	
上代文学演習－1・2	上代において主要な作品である『萬葉集』を読む。古写本・古註釈書、或いは古字書の扱いに慣れる事によって、上代の人々が中国の漢字を使って表現した日本語を読み解き、当時の文学的な営みの本質を探索する。
中古文学演習－1・2	王朝和歌、特に私家集を扱う。特に今まで注釈が刊行されていない私家集を対象に読むことで、本文校訂の力を養い、歌語や表現を史的展開の上に位置づけ、その上で和歌を解釈する方法を身につける。当該の私家集の特徴を周辺の文学との関わりからも考察し、各自、いかに研究のテーマを設定できるかを探究する。
中世文学講義－1・2	中世文学作品(特に室町時代の作品)ならびに作家をめぐる諸問題について、最新の研究成果を紹介しながらさまざまな角度から講ずる。輪講形式で学生による発表を交え、古典文学研究のための基礎知識や基本的な手続を再確認し、専門的な注釈方法の習得を目指す。
近世文学演習－1・2	近世文学の中から、現今の学会の研究状況などから問題となる作品を抽出し、その作品について、注釈、評論、時代背景についての研究方法を身につける。あわせて、その作品の周辺の文学状況や研究史などについても、自身の力で調べ、考察する。
近代文学講義－1・2	近代文学の諸作品(小説・詩歌・戯曲・評論)について、作品そのものを精読するとともに、代表的な先行論についても丁寧に吟味する。作品と先行論を問わず、精読には、方法的な反省も不可欠である。その点についてもしっかりと学んでもらい、自己の研究テーマを深化させる機会とする。
日本語学講義－1・2	日本語学の主要分野の基礎的な項目・研究方法を体系的に身につけ、独創的な日本語研究を行うための高度な能力を養うことを目指す。先行研究の正しい理解と把握、言語資料の正確な解釈を行いながら、研究テーマの設定の仕方を探索する。
漢文学研究－1・2	中国文学・思想分野の代表的な作品と論文を読み、各テーマについて自身の問題意識と分析・研究能力を身につけることを目指す。作品の背景となる歴史文化や日本をはじめとする各国・諸地域における文化交流を重視し、中国文学・思想への理解を深める。授業内容は、受講者の関心や研究テーマを考慮しながら適宜調整する。
日本語教育学演習－1・2	日本語教育のいくつかの分野、例えば教授法やテキストの構成などについての論文を扱う。それらを批判的に数多く読むことにより、方法論を身につけ、問題意識を明確化し、論文作成につなげる。
文献情報処理－1・2	文献情報処理では、日本文学専攻の学習・研究に役立つ情報処理技術を身につけることを目標としている。情報や文献の検索法、文字列操作等の情報処理、簡単なプレゼンテーション技術について演習中心で学習する。
<b>英文学専攻</b>	
アメリカ研究特論I	前期には、アメリカ史学史に関する文献と論文を読み、アメリカ史の文脈からアメリカ民主主義とアメリカニズムについて考察する。後期にはより具体的に、人種とジェンダーの問題に焦点を当て、アメリカ的価値観の特質を探索する。
イギリス文化特論	この授業では、イギリス文化を研究するための方法論を学ぶ。文化の研究は、文学研究、歴史学、社会学、さらには民俗学や人類学など、さまざまな分野と関わるので、いろいろな切り口を知っておくことは大学院での研究にとって重要である。この目的のために、毎年どれかの分野を選んで、それに関する英文の入門書を演習形式で読んでいく。
英米小説特論	19世紀～21世紀のイギリス小説または短編(児童文学を含む)を取り上げ、扱う作品の社会、文化、思想的背景を視野に入れながら作家や作品の個性と時代的特質を考察する。分担を決め、各担当者の発表形式で授業を進める。
英語学演習	主に語用論、社会言語学、人類言語学、談話研究などの概説書や論文を読み、ディスカッションを行う。これらの分野における研究の方法論、分析による結論・考察の妥当性などについて多角的な視点から考える力を養う。
近代英文学講義 I	本授業は、イギリス・ルネサンス文学の研究を通じて、同時代のイギリス文化の構造を歴史的に考察することを目指す。この目的のため、シェイクスピアを中心とする文学テキストの精読を重視するとともに、イギリス・ルネサンスに関する第2次文献の取り扱いについて解説していく。
米文学演習	20世紀のアメリカ小説の中から主要な長編を取り上げ、丁寧に読み進める。作品に表れている時代的、民族的特質などの理解に努め、またその作品に関する先行研究の論文も読み、様々な作品分析の方法を習得する。
早期英語教育特論	小学校英語教育の現場の教師を養成することを主眼にしている。小学校で外国語活動を経験してきた子どもたちを受け入れることになる中高の英語教師を目指す学生にも開かれた内容の授業となっている。小学校での指導内容と指導方法、適切な教材やteacher talkの方法など、早期英語教育にかかわる諸課題について考える。
<b>史学専攻</b>	
日本史特殊研究Ⅱ－1 (日本古代中世史特論)	「醍醐寺史料」の輪読を通して、中世醍醐寺の寺院組織と多彩な仏法の実相を明らかにします。
日本史特殊研究Ⅲ－1 (日本近世史特論)	政治史・対外関係史を中心とする日本近世史に関する史料・文献を発掘・収集し、それを読み込んで課題を追究します。特に、先行研究について検討する力と、古文書解読能力を身につけることを目指します。
日本史特殊研究Ⅳ－1 (日本近現代史特論)	経済社会を中心とした日本近代史を実証に重きをおいて研究します。特に比較史的視点に立った蚕糸業史・農村史を軸に、地域における一次史料を渉猟する共同調査を行い、史料の保存・公開にも意を用います。
東洋史特殊研究Ⅰ－1 (東洋古代史特論)	6～10世紀のユーラシア東部における東西および南北交渉の諸相について考察します。特に紀元一千年紀に内陸交易を独占的に支配したオアシス都市民・ソグド人に注目し、関連史料と論文の講読・検討を行います。
東洋史特殊研究Ⅳ－1 (東洋近現代史特論)	中近東イスラーム現代史に関する論文等を講読します。取り上げるテーマは、文明としてのイスラーム、民族・エスニック問題、宗教・宗派問題、国民国家などです。また第二次世界大戦期日本の対中東イスラーム政策も視野に入れます。
西洋史特殊研究Ⅱ－1 (西洋中近世史特論)	イングランド国王宮廷で流布した噂話を集めたラテン語史料を精読し、中世ヨーロッパ文化の多様性を検討します。
西洋史特殊研究Ⅳ－1 (西洋近現代史特論A)	ヨーロッパ近現代を対象とする社会史研究に関して、具体的な史料(英・仏・独・伊語)や研究文献(主として英語)を取り上げて批判的に検討し、方法的な考察を行います。

社会福祉学専攻	
社会福祉原理特論Ⅰ	社会福祉の政策や実践は、ある問題を前提にして構築されていくとともに、逆に政策や実践によって、福祉問題のカテゴリーが形成されていく。こうした政策と問題の交互作用の中で、異なった価値、手法が動員されて、社会福祉の原理が形作られていくことを、いくつかの文献で学ぶ。
社会福祉政策特論BⅠ	国際比較の視点で東アジア諸国における社会福祉政策の形成要因、形成過程を検討し、その政策の特徴を解明する。また、比較分析に有効な手法や理論的概念についても検討する。
社会福祉方法特論BⅠ	変革の時代の社会福祉現場で急務とされているのは、サービスの質の向上と権利擁護である。本講では、最新の福祉理念にもとづく支援体制の確立とサービス提供のありかたを、英国の実践モデルに関する諸文献を参考にしながら、探求する。
社会福祉方法特論FⅠ	専門職による意思決定を尊重したパターナリズム・モデルでは、当事者の主体的な課題解決が困難になる。こうした問題意識から、子どもや家族が社会資源との相互的つながりの中で、主体性、意欲、自尊感情を回復する手段について議論を深める。
社会福祉方法特論CⅠ	この授業は、論文作成のプロセス、構成の仕方、などの研究の基礎を学ぶことを目的としている。本コースでは前期には、研究方法に関するテキストを読みその理解を深め、後期には、実際に論文の構成を理解・評価できるようになることを意図しそれを実践していく。
社会福祉方法特論EⅠ	先行研究から研究の問いを明らかにする。この作業を通じて理論枠組、研究設計などを確認しリサーチプロポーザルを作成する。また、ソーシャルワーク理論、質的研究、地域精神保健とサポートシステム、当事者のセルフヘルプとサービス運営への参画、多文化ソーシャルワーク、コミュニティメンタルヘルスの国際比較などの議論を行う。
教育学専攻	
教育思想特論演習	言語、知識、道徳をキーワードとして、ヨーロッパの古典近代、公教育成立期、および20世紀後半以降の時期の代表的な教育思想のテキストを取り上げます。テキストの読解とディスカッションを通して、現代日本の教育を考えるための思想的な枠組みを模索することを目的とします。
生涯教育学特論演習	成人教育、生涯学習に関する国内外の文献購読を通して、ゼミ形式の授業を行います。授業は学生と相談しながら授業を進めます。具体的テーマは、地域づくりを通したボランティアの自己形成、NPO活動における学習促進と社会形成との関係などです。
教育社会学特論講義	社会階層と教育(学歴)の関連についての主要な理論である機能主義理論と葛藤理論について、原典の検討をとおして、前者から後者へのパラダイム転換という通常のテキスト的理解の限界を超える把握を試みます。
教育工学特論講義	教育工学の内外の研究文献を用いて、教育工学の主要な研究課題とその動向を把握するようにします。特に、「学力向上をめざす授業デザイン」「教育におけるICT活用」「初等・中等・高等教育における教育方法の改善」をテーマに講義します。
教科教育学特論Ⅰ演習	内外の授業研究文献を読み、実際の授業を観察・記録したデータ処理の方法についても実践的に学習する予定です。また、授業データ採取と処理のために、デジタルビデオカメラやパソコンの利用に習熟する時間も必要ですが、授業時間内では無理があるため、個々の主体的な補習が必要な場合があります。
女子教育論特論講義	日本の近代以降の女性の教育、家庭教育に関する文献を読み合わせながら、各時代の女性の教育・生活・活動および家庭教育を検討する際の分析視覚(支配的なジェンダー観、両性の関係構造、規範の受け手の視点、階層性など)を獲得することを目指すとともに、これからの女性の教育、家庭教育を考える上で求められる分析視覚について考えていきます。
現代社会論専攻	
生活構造論特論演習	本講義は、労働経済学の理論的フレームワークを使って、女性の社会進出および結婚や出産の変化について学ぶとともに、その理論をデータを使ってどのように検証したらいいのか、その実証方法について学習する。さらに国際比較をつじて各国の違いをあきらかにしながら、その違いがなぜ生じるのかについて考える。
社会史特論演習	<戦後日本>の思想について考える。<戦後思想>の文献を、前年度から読みついできているが、今年度はその継続ということになる。敗戦後60年たつて、<戦後日本>と<戦後思想>を歴史化するという問題意識であるが、とくに1950年代が当面の切り口となる。また、「戦後」における論争や沖繩における論争といった問題群にもアプローチしてみたい。
社会変動論特論演習	本演習は、質的および/または量的な調査にもとづき、理論と歴史をふまえた比較社会学という観点から、参加者の研究を深めることを目的としている。具体的な進め方は、参加者と話し合いながら決めている。
社会スポーツ論特論演習	遊び、スポーツ、レジャーそして健康といったことと関連する問題を身体論から解きほぐしながら、現代社会においてそれらはどのような意味をもっているのかを明らかにする。より具体的には、高度に発展した消費社会が遊び、スポーツ、レジャー、健康に及ぼす影響、とりわけ幻影化されているのではと思われる諸点を批判的に取り上げていきたい。
メディア論特論講義	マス・メディア、メディア及びコミュニケーション現象を中心に、近現代社会に対する社会学的考察を行う。とくに(マス・)メディアに人々をひきつけ、それについて語らしめる想像力の様態自体を一つの社会学的現象ととらえながら、「現実の」社会におけるメディアの実定性とそうした想像力との関係を考えていく。文献購読も、受講者と相談のうえ考えたい。

心理学専攻	
心理学研究基礎論講義	心理学専攻の指導体制の強化一環として教員全員で指導を行う。各自の研究発表により院生相互の情報交換を行いながら、教員との議論を通じて高度な研究方法についての知見を広め深めることを目的とする。
基礎心理学特論Ⅱ演習(知覚心理学)	知覚・認知心理学に関する古典的な文献や最新の論文を購読し、院生自身の研究推進に必要な基礎的知識を会得する。また、心理物理学的実験を自ら組み立てて遂行することにより、実践的な実験手法や解析手法を身につける。
基礎心理学特論Ⅲ演習(発生論的認知心理学)	実験心理学では、どのような研究をするべきなのかといった研究の動機付けや、どうすればいい実験ができるのかといった方法論まで、実践的な研究活動を念頭に演習を行う。また、医療現場における乳児検査プログラムについても、検討を行う。
社会心理学特論演習	ヒトの心理、行動について、様々な視角、方法論から検討することを目的とし、その参考となる文献を購読しながら、教員と学生で議論する。学生の関心に合わせて、購読する文献は変わるが、原著の論文を基本とする。
臨床心理学特論講義1	カウンセリング実践に関する文献を講読し、基本的な臨床的態度および心理臨床業務の進め方、プロセスについて体験的に学ぶ。
臨床心理実習I-1(心理実践実習)	心理実践活動に必要な知識・技能の基礎的な理解の上に、心理実践の現場における実習を行う。具体的には、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業界に関して、見学実習や実践実習を行うことに加え、心理相談室での担当ケース実習等を行う。
関連文化論専攻	
文化論特論演習Ⅰ(日本)	日本の宗教史・宗教文化と民俗文化の関係性について、関係する論文を取り上げ、その内容を理解していく。具体的には、黒田俊雄の宗教史研究・寺社勢力論、神仏習合思想、陰陽道と民俗文化に関する諸研究、神楽と修正会に関する諸研究、中世～近世の偽文書研究・由緒書研究などについて講読する。日本の宗教史と民俗文化の関係性について理解を深め、民俗誌的な事例を検討する手法を学ぶことを目標とする。
文化論特論演習Ⅱ(日本)	日本の思想・哲学について、東洋の伝統思想との関わり、影響を受けた西洋思想との比較、現代における意義について、隣接する文学・美術分野などとの関連をも視野に入れながら考察し、複眼的な見方と柔軟な思考力を養成する。今年度は特に、日本の近代を代表する哲学者和辻哲郎の『倫理学』を、その家族論を中心に読む。和辻の家族論を理解すること、現代家族論との比較のなかで、和辻の家族論の問題点を考えることを目標とする。
文化論特論講義Ⅲ(西洋)	主に、現代の美学思想ないし芸術哲学を検討する。具体的には、20世紀後半から主張されはじめた、芸術(美術の歴史)終焉論と現代芸術のおかれている状況論について、テキストを講読しつつ、考察する。また芸術(美学)と倫理(学)の絡まりのあり様について、Daniel Barenboim の、The Ethics of Aesthetics, Nexus Lecture 2010, Nexus Library VII, Nexus Institute, Tilburg 2010 (La musica è un tutto Etica ed estetica, Feltrinelli, 2012)を中心に読みながら検討する。
比較文化論特論講義	ヴィクトリア朝を中心にイギリスらしさとは何かを探る。具体的には、男女のファッション、美術運動、娯楽や趣味に対する考え方、フランスとの比較、工業や科学技術の発展を論じた論文を検討することで、イギリス人が独自のものと信じた感受性がどのように形成され、発展したのかを学ぶ。今年度は特に、家事使用人のユニフォームを取り上げ、階級とジェンダーの関係から特徴を明らかにする。
芸術文化史特論講義	日本美術に関して、多角的な視点から美術作品にアプローチし、詳細な分析を通して、作品解釈を深めることを目指す。前期は、先学の研究論文や美術史の方法論に関する文献の講読を行い、多様な美術史の方法論を学び、また、論文作成のための、資料調査の方法や作品調査の方法などを学習する。後期は、前期の学習を踏まえ、発表とディスカッションを行う。発表に際しては、それまでに学んだ分析や解釈の方法を、自らの研究テーマに応用し、新たな解釈を導き出すことを目指す。一年を通して、各自が論文作成を明確に目標とし、調査および研究を行い、成果を導き出すことを目的とする。

数理・物性構造科学専攻	
数理・物性構造科学総合演習	3部門(数理構造、数理・情報、構造物性)合同でそれぞれの分野からトピックスを選び先端的研究者の講義を聴くことで先端知識の吸収を図るとともに、1年次の院生の研究状況をもとにディスカッションし関連分野の理解を深める。
代数学構造論A	代数的整数論の初歩について学ぶ。特に、最も基本的で重要な対象である「イデアル類群」「単数群」についての有限性定理を解説する。その後、代数体のGalois拡大におけるHilbertの分岐理論について解説する。
幾何構造論A	可微分構造を兼ね備えた位相空間として多様体の定義をし、その例を解説したうえで接空間や写像の微分など関連する基本的な概念を説明する。 引き続き、多様体上の付加構造として、Riemann計量、シンプレクティック構造、Lie群の作用についての解説をする。
解析構造論 I (エルゴード理論)	古典統計力学に端を発している「エルゴード理論」とよばれる数学理論について学ぶ。 エルゴード理論は、確率論、数論、関数解析、幾何学など様々な分野と密接な関わりを持っている。 本授業では、エルゴード理論入門として基礎的な内容を紹介する。
数理構造論A (関数方程式)	偏微分方程式を取り扱う方法の一つに、関数空間上の取り扱いがある。本講では、まず、線形な境界条件を伴う楕円型方程式に対する境界値問題を紹介した後、その問題の解を記述する弱形式を定義する。そして、弱形式に対する解の存在や一意性を議論する。解の存在には、ヒルベルト空間におけるリースの定理を利用する。また、変分形式による非線形境界条件等の取り扱いについても考察する。
位相幾何学構造論B	3次元位相多様体の初歩を扱う。分岐の無い綺麗な図形である多様体の具体例を数多く観察し、一般論の向き付け可能閉3次元多様体の素な多様体への分解の一意性へと進む。切り貼り技巧の初歩を学ぶ。
情報科学 IV	ベイズ統計的な画像処理の基本と各種の機械学習法の概念とアルゴリズムについて学ぶとともに、実際の画像に対する適用事例を通して処理の特徴や効果について理解する。
構造物性科学 II	構造や物性に関するさまざまな解析が固体物理学の礎となっている。本授業では主として固体の構造を解析する手法について学ぶ。結晶構造解析の基礎となる散乱回折現象や構造解析に用いられている電子線、X線、中性子線についてその特質を理解する。
宇宙物理特論	天体の観測は天文学のもっとも重要な基礎である。物理学や天文学が数学と異なるのは、現実の自然や現象を対象としている点である。天文学は観測事実を理論的に説明することにより宇宙を理解し、理論的に予測される現象を天体の観測によって確かめることで発展してきている。この授業では、その観測がいかに行われ、観測データからいかに必要な情報を抽出するかということについて学ぶ。また、可視光における撮像観測を中心に説明し、他波長における観測については多くをふれないが、随時関連する他波長における観測についても説明する。
情報物性 III (計算機特論 (ハードウェア))	組み込みシステムやセンサネットワークシステムは、高度に情報化が進んだ社会において主要な役割を果たす計算機システムになると考えられる。本講義では、これらのシステムおよびその周辺分野の概要を学び、今後の社会におけるこれらの技術の位置付けを考えるとともに、センサネットワーク技術の詳細を学ぶことで、従来とは異なる新しい計算機システムの可能性について議論する。
情報物性 IV (計算機特論 (ソフトウェア))	我々の日常生活において、コンピュータやインターネットの存在はなくてはならない存在となり、常に膨大なデータ量の中に埋まっている。この中から、有用な知識を見つけ、意思決定を行うことが必要とされており、これを行う技術がデータマイニングである。データマイニングは大量のデータを扱うため、大規模なシステムがないと構築できなかったが、コンピュータ技術の発展により、大容量の計算が可能となったことから、データマイニングが注目を集めるようになってきた。 本講義では、データマイニングの基礎的な技術である多変量解析を中心に代表的な技術について学ぶ。
情報科学 I	本講義では、ネットワークコンピューティングに関する最近の動向について解説する。インターネットはさまざまな情報の共有を実現してきた。近年ではさらにコンピュータ処理をネットワーク経由で共有する「仮想化」が普及しつつある。仮想化はリソースの利用効率を向上させることができ、多方面で適用が進められている。本稿では、クラウドサービスと呼ばれるサーバの仮想化を中心にその考え方を概説し、その利用について実践的に学ぶ。
量子力学特論 II	量子論における物性、特にスピニンに着目し、有機半導体や電荷移動錯体などの分子物性科学の柱の一つでもある「分子磁性」への理解を目指すものである。英文テキストを輪読形式で講読し、随時演習問題を解く時間を設ける。
熱・統計力学特論	熱・統計力学特論では学部で学習した熱力学と統計力学の実際の系への応用を中心に学ぶ。統計力学は量子力学で記述されるミクロな系の法則が、巨視的な系の現象にどのように現れるか、また別の言い方をすれば身近な物理現象の量子力学的な原因を説明する。本講義では比熱や相転移等の観測され計測される物理現象を統計力学を基礎にして理解する。
構造物性科学 I	シンクロトロン放射光は現在、物質科学、生命科学、地球惑星科学、環境科学など、さまざまな自然科学の分野で利用されている。この授業ではまずX線領域の放射光の利用に欠かせないX線光学について基礎から理解することを目的とする。さらにシンクロトロン放射光について発生の原因やその特徴を学ぶ。また授業ではシンクロトロン放射光を利用した測定法のいくつかを紹介する。
構造物性科学 III	本講義では主に超伝導現象を中心に巨視的量子現象についての講義を行う。超伝導現象は量子効果が巨視的に表れる典型的な巨視的量子現象である。
構造物性科学 VI	This course describes the principles of nonlinear optics and discusses the operation of photonic devices/systems that utilize various nonlinear optical effects.
応用物理学 I	量子力学、特にエネルギーと電磁波の放射の関係について復習した後、宇宙に存在する星間物質とそこからの放射について解説する。さらに、その応用として、電磁波の性質を調べることで、天体のどのような物理的な性質が明らかになるか、その手法について学ぶ。
数理情報科学 IV (代数幾何符号)	楕円曲線は、歴史的には楕円の弧長の計算に関連して現れた平面3次曲線で、点の間に加法が定義できるという著しい特徴をもつ。楕円曲線は整数の性質と深く関係しているため数学の世界では従来から重要な研究対象であったが、近年暗号通信など情報分野にも盛んに応用される様になってきた。本講義では、楕円曲線の基本的性質について解説するとともに、公開鍵暗号や仮想通貨などにどの様に用いられているかについて紹介する。
情報物理フロンティア	近年、情報科学の進展は目覚ましく、さらに加速度的に進歩しつつある。本科目では情報科学における先端の研究や技術、産業における実用例に触れ、技術動向を理解し研究の方向性を見出す力を養う。そのため、情報科学の先端を走る研究者、技術者の講義や対話、研究/開発などを行う組織の活動を知る機会などを提供する。
物性物理フロンティア	物性物理学の最近の進展は以前にもまして著しく、その領域もますます拡大している。その背景には、新しい物質の発見や測定技術の進歩、超微細加工に見られる先端技術を利用した試料作製などがあり、その成果は、再び現代社会を支える技術の中に活用されている。このような最近の物性物理の進展の状況に身近に触れ、大いに刺激を受けることは、学習・研究の質を高めることに繋がる。そこで本講義では、物性物理分野におけるエキスパートに新鮮な話題を提供していただき、質疑応答を通じて知識を深めることを目標とする。

物質・生物機能科学専攻	
物質機能科学Ⅰ (分子物性科学特論)	前半では分子軌道法の原理を学習し、分子軌道の決定について学ぶ。 後半はおもにGAUSSIAN09を用いて簡単な分子の計算を行う。応用問題として、炭素炭素間の単結合および2重結合、ペプチド結合の回転障壁の計算を行う。
物質機能科学Ⅱ (反応力学特論)	血管の全体構造や植物の分枝構造、空を走る稲妻など、世の中には不規則で複雑、しかし美しい構造や現象が多い。こうした複雑な構造や現象に対しては、まず、その複雑さを定量化する「フラクタル」というアプローチが有効である。このアプローチについて基礎から学ぶ。フラクタル構造を、パソコン中に再現することにもチャレンジする。
物質機能科学Ⅲ (有機物性化学特論)	特殊な構造をした有機化合物では特殊な性質が発現する。これらの性質が基本となってホスト-ゲスト化学が成立する。講義では、ホスト-ゲスト化学と包接などの概念を説明し、代表的で興味深い性質を持つ化合物を取り上げる。また、後半は受講学生自ら関連分野の英文論文を探し出し、読み、各人に解説してもらおう。この発表に対し、質問と討論を行う。
物質情報科学 (環境化学特論)	環境中での物質の動きを理解する基本となる基本的なツールを身につけることを目的とする。速度論、化学平衡、熱力学などについて環境化学的な例題を用いて解説し、演習問題を解きながら学ぶ。
分子細胞科学Ⅰ (分子細胞機能特論)	分子生物学の分野の、特に重要な発見に導いたと考えられる研究論文をいくつか紹介し、その研究内容を説明する。そこで行われた実験方法、実験結果の解釈、ならびに結論にいたる論理などを説明する。
分子細胞科学Ⅱ (分子細胞構造特論)	生物は、複雑多様でありながら秩序だった機構を備えている。遺伝子の塩基配列が与える「抽象的な秩序」を生きている生物の機構と結びつけるには、生体内での微細な構造の可視化解析が有効である。本講義ではこうした解析から明らかになったオルガネラの分化や細胞内の物質輸送などに関する最新の研究成果について紹介する。受講者との意見交換を通じて、学術的な議論の展開法も学ぶ。
分子細胞科学Ⅲ (分子発生生物学特論)	動物の個体発生におけるボディプラン形成、形態形成ならびに細胞分化の制御機構について分子や遺伝子の機能の観点から学ぶ。生物学全般の基礎となる知見を広めるとともに、研究の着眼点、方法、データの整理や評価等の能力を養成する。
分子細胞科学Ⅳ (分子細胞操作特論)	実験動物の遺伝子操作は、研究室内で汎用される重要な実験手法であり、食品・医療等の分野にも応用されている。遺伝子操作の基本原則や実用性を学ぶと共に、最新のトピックスに関する知見を得ることを目的とする。
生体分子科学 (生体物性化学特論)	タンパク質や核酸といった生体高分子の立体構造構築原理や機能との関連を学び、生体高分子の立体構造に立脚した生体反応の分子機構について、最新の研究成果を通して理解を深める。
生体制御科学Ⅰ (適応制御特論)	ヒトを含む動物の感覚情報処理機構について、味覚を中心に、刺激の受容、刺激種の識別、伝導路とその可塑性、情動と記憶、嗜好性とホメオスタシスなどを通して学習し、最新の研究成果に触れることで理解を深める。
生体制御科学Ⅱ (成長制御特論)	多くの植物では、外界の環境変化を感知し、さらに自己の発生プログラムに従い、栄養成長から生殖成長への切り替えを行う。本講義では、植物の生殖成長、受精に注目し、その制御機構を、論文の内容に基づいて概説する。受講者は、関連原著論文、原著総説などを選択し、その内容を報告、論議する。
分子生理科学Ⅱ (生体高分子科学特論)	生体高分子は、生命活動を営む上で最も重要な物質群のひとつである。中でも、タンパク質は生体の化学反応、即ち代謝に深く関与している。本講義では、特にタンパク質の機能と構造について、実践的な研究手法を紹介しつつ、体系的に理解を深めることを目的とする。